

教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会 報

48

題字 榎本頼兼氏

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒600-8171

京都市下京区不明門通五条下ル

インターナショナルアカデミー内

TEL 075 371-5081

FAX 075 371-6005

印刷所 株式会社 洛 陽

現代教育研究協会は教育の今にどう向かうのか

会 長 梶 村 健 二

学校教育の課題

最近参加した会合で思いに残ったことがあります。一つは厳しい生活環境の中で働きながら夜間中学校を卒業し、その後定時制高校、大学でも学んだ女性の出版記念の会です。そこでは生きるために学びたいという熱い思いが特に周囲の女性とのかかわりの中で培われていき、自己実現を目指して生涯学習を実践されていることが強く印象に残りました。



また一つは、今春退職された校長先生の祝賀会です。保護者、地域の方々に支えられ、惜しまれながら退職された校長先生に對して多くのお礼の言葉が寄せられたのはもちろんで

すが、特に一年生から六年生までの在校生一人一人が具体的な場面での校長先生の指導に対して感謝の言葉をつづったビデオレターには感動しました。本当に京都の学校は保護者、地域の強い支えの元に子どもの教育を推進していると実感した次第です。

昨年から学校教育に関してあまりいい話がマスコミには出ていません。大津市のいじめによる中学生の自殺、大阪市立高校バスケット部顧問の体罰による主将の自殺事件など学校教育の厳しい事件が大きく取り上げられています。いじめにしろ、体罰にしろ、学校教育の中で決してあってはならないもので、ましてやその結果子どもが自殺するということは許されな

いことです。学校や教育委員会の取り組みの

不十分さもあり、首長主導の第三者委員会等で実態把握、原因究明、課題提起がされています。いろいろな問題が起こればその都度その問題に対する対策が考えられ、判断や行動のマニュアルが作成されます。もちろん目の前の問題にどう対処するのかということは大事なことでありますが、中長期的に考えれば、より本質的な取組をしていくことが重要ではないでしょうか。

何よりも教師と子どもとの信頼関係を築くとともに、子どもには自分を大切にし、人を大切にする、他人の痛みを感じる豊かな人権感覚を育むことが大事であります。

そのためには教師自身が教職への使命感を再確認し、社会や子どもの変化を認識したうえで、日々の学校生活でのきめ細やかな子ども

もへのかかわりを大事にした取組を確実に実践していくことが求められているのではないのでしょうか。私たちも地域の一員として学校教育に関心をもち共に学校を支えていきたいものです。

公立高校の教育制度と選抜制度の改善

京都の公立高校の教育制度と選抜方法が平成二十六年年度の選抜から変わります。

昭和六十年に現行の類・類型の設置や通学区域の設定がされましたが、通学の利便性の向上や中学生の進路希望の多様化に対応するため、京都府・市の教育委員会では生徒・保護者や関係者などの意見を聞き、公立高校の教育制度と選抜制度の改善がなされることになりました。

主な改善は、全日制普通科の類・類型廃止と、通学区域を統廃合し全市一通学圏にすること、前・中・後期の三回の受検機会の設定と高校ごとの選抜制度（単独選抜）の導入です。

今回の制度改善を受け、単なる高校進学に焦点化した進路指導ではなく、これまでにも増して中学校のみならず小学校の段階から将来を見通したキャリア教育をより強く推進していかなければなりません。

自分は将来社会に出て何をしようとしているのか、何を目指して高校に行くのか、高校で何を学ぶのかといったことをより明確にし

たうえで高校進学を考えていくことが大事になってきます。

中学生がそうしたことを十分認識してどの高校で学ぶのかを選択する力を育成していくことが求められており、中学校においてはすでにそうした力の育成をあらゆる教育活動を通じて行っているものと思います。

子どもたちがより良い学びの場で未来の夢を実現できるような見守っていきましょう。

法人改革 社団法人から一般社団法人への移行

教育の課題や改革をしつかり見据え今年も現代教育研究協会は白らの学びを充実していきます。

一昨年から現代教育研究協会の社団法人から一般社団法人への移行事務を進めてきましたが、このたび京都府公益認定等審議会の答申を経て京都府知事から正式に移行への認可がされました。二年間にわたりさまざまな移行事務を担当していただいた福西理事をはじめ多くの関係者の皆様に感謝申し上げる次第です。

平成二十五年四月からは一般社団法人現代教育研究協会」として正式に発足しました。今回の移行によって何が変わったのでしょうか。これまでから機会をとらえて説明してきましたが、今一度この点を明確にしておきたいと思

います。まず一般社団法人化してもこれまで本協会が行ってきた各種の事



河村 広子氏
京都市教育委員会学校指導課長

京都市の学校教育が目指すもの 「子どもにどのような力を 育てようとしているのか」

京都市教育委員会学校指導課長 河村 広子氏

業は変更せず継続して実施していきます。会員の皆さんの多様なニーズを踏まえ幅広い分野から講師を選定しその時々にあつたテーマでの講演を通して会員の皆さんと共に考えていきます。

また、今回の変更で会員の皆さんの会へのかかわりについては一切変更はありません。従来通りの権利と義務を会に対して持つていただいています。

一般社団法人として出発するに

際しては、これまでの基本財産を公益目的に沿って計画的に事業展開することが求められています。当協会は民間の立場から公共を担っていくという観点からより公益性と公共性を意識して会の運営及び事業実施に努めてまいりたいと考えています。会員の皆様方におかれてもこれを機により積極的に協会にかかわっていただきますようお願い申し上げます。

第一回講演会 平成二十四年五月十二日(土)

二十四年度最初の講演会は、京都市教育委員会の学校指導課長河村広子先生にお願いいたしました。先生は学校現場で教壇に立たれ、校長職にも就かれたあと、教育行政の第一線で活躍しておられ

ます。会員の皆様のアンケートにも年に一度は京都市の教育の現状と

はじめに

小学校の現場を離れて六年目になります。教育委員会の学校指導

課にいますので学校の現状がさまざまな情報として入ってきます。様々なものを見聞きする中で課題が山積であり、いろいろな問題が深刻化し、思いがけないようなこともでてきています。様々なマインスインプットが入りますが、そこをなんとかプラスに転じながら、夢をもつて教育を語り続けていきたい、こんな学校が作れたらいいなあ、こんな子どもたちがなつてくれたらいいなあ、と思いながら仕事をしています。

新学習指導要領が目指すもの

新しい学習指導要領が平成二十三年度は小学校、二十四年度は中学校で全面実施された。

その目指すものとして大きく三つの観点があげられる。ひとつは教育基本法の改正等で新たに明確になった教育理念を踏まえた目標規定であり、

- ・能力の伸長、自主自律の精神、職業との関連重視
- ・公共の精神、社会の形成に参画する態度
- ・生命や自然の尊重、環境の保全

。伝統や文化の尊重、我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与など今日的に重要とされることを目標に規定した。

もう一つは今回の改訂をとおして、学力とは何か？についてはつきりしてきている。学力とは

- ①基礎的な知識・技能の習得
- ②知識・技能を活用し、思考力・

判断力・表現力等の育成

③学習に取り組む意欲

という三つの要素で捉えられる。そして三つめに知・徳・体の調和を図り、社会全体で「生きる力」を育むということで、道徳教育、体育の充実をあげている。このことはまさに京都市の教育が目指していること、そのものである。

京都市の学校現場の現状

少し夢のない話になるが、いま子どもたちがどんな状態にあるか、教員が何に悩み何に困っているかを話したい。

今気になることの背景を追っていくと人権意識の低下があげられる。人権についての認識は向上しているだろうが日常生活の中では今の子どもたちは自分中心になっているので、自分との違いを許容できないとか、誰も見ていなければ何をやってもよいとかの規範意識の低下がみられる。

それが家の中だと家族との関係であらわれるし、様々な社会性や人間関係をつくっていく他人とのコミュニケーション能力の不足になり、基本的な生活習慣の定着や学習の意欲低下、単に机に向かっているものだけでなく体験活動も含めて、最初から投げ出す、何をやるのも面白くないというような課題がみられる。

子どもの望ましい成長や人格の形成も阻害していくし、問題行動にもつながり小学校では学級崩壊、中学校では学級の教師に対す

る態度を変える教科崩壊が起こるというようにとんでもない状態にもつながり、先生方の心労が多く休む教員が増えたりというようなことにつながっていく実情がある。

先生たちはそのあたりをもっとも悩んでおられる。課題が多様化し輻輳しており、保護者のクレームがそれに輪をかける状況がある。以前は親と教師はほとんど話し合うと子どもの課題を解決するためにひとつの方向が見い出せたものだが、そういう教師との話し合いそのものを拒否する親たちも多く、うちの子どもについては放っておいてくれなどという姿勢があると、そのことが子どもにもマイナス影響に働いていく。

発達障害についても、個人に関わる大変多くの個別の課題があり、特効薬的な方法論というのは見い出せない。

京都市で今、二十三年度の状況だがLD等気にかかる児童生徒数の調査で、小学校六・二一%、中学校四・七%という数字がある。診断をした結果ではなく、学校として発達障害があるのではないかと気にかかる生徒の数字である。百人いれば小学校では六人、中学校では四人ぐらいが学校の中でしんどい状況にあるといえる。ただその背景をさぐったり、何がこの子をこうさせているのか、とその原因を考え、また自分の指導をじっくり振り返ったりということが出ていず、そういった表面の積もり積もった現象から教師

は、どうすればいいのかと悩み困っているといえます。

客観的データが示しているもの

こういった現状にあるわけだが、これらを客観的にデータ化して捉え考えていく必要があるのではと受け止めている。

そこで見ていくのが全国の学力学習状況調査である。二十三年度は東日本大震災の関連で全国調査はできなかったで、二十二年度の調査のご紹介をする。全国で三十%程度の抽出調査である。

全国と都道府県ごとの結果が新聞等で公表されているが、京都府は小学校は全国平均を一〇〇とし、国語や算数では一〇二から一〇六で全国で四位、中学校は九六・七から九九・六で全国順位では三十七位だった。

私たちは小学校と中学校との差について考えていきたい。中学校はどういうところが課題になっているかという基礎的基本的な知識の習得ではなく、その活用に課題がみられる。

……(このあと、学習状況の調査でのデータについても、京都市の数値にもふれながら、子どもたちの生活面での課題、ケータイへの依存、図書館の活用等々についてふれられ、これらは子どもとの問題ではなく、大人の問題という認識が必要だと話される。)

……(総合教育センターが政令指定都市の共同研究でのアンケート調査で、興味深いものがあり、

それは、「あなたの親はあなたにどんな人になってほしいと思っていますか?」という問いに対して、「わからない」という答えを選択したのが二九・六%が全国で、京都市は三六・四%だった。親と子のあいだにどんなやりとりがあり、どんな生活があるのだろうか、子どもが夢や希望を持てていないということは、親が夢や希望を持たせていないということにつながるのではないかとこのデータから感じる。表面的に見える数値から背景にある意識を探っていくことで取り組みの方向がみえてくるのではないかと)

……紙面の関係でご紹介できませんが、このあと保護者や地域及び教職員の現状と課題という内容が濃く興味深いお話が続く、そういった現状を打開してゆくための指針としての、京都市の学校教育の重点が示すものという講演の本題にはいつてゆきます。学校教育の使命とは……「一人一人の子どもの徹底的に大切にすることという理念のもと、人間形成の理想を求めて、子どものよさや可能性をいかに引き出し、どのような子どもに育てるか、そのために学校は何をなすべきか、追求し実現すること……であり、めざす子ども像・教職員像・学校像についてのお話、そして別途資料を用いての、京都市の学校教育の基本方針、平成二十四年度の重点項目についての説明と続き、最後に先生の私見として、「こんな子どもに育てたい」

として心豊かに生きることや環境教育のなかで考えていくという実践についての先生の思いが語ら

第二回講演会 平成二十四年七月七日(土)

「日本絵画とは……」

日本文化の流れの中に見る美の形

京都嵯峨芸術大学教授 佐々木 正子 先生

佐々木正子先生は東京芸術大学絵画科で日本画を専攻、古画法に

関心を持ち研究を進め、画法・描法の解析を通して絵師の絵画思想に迫ることを目指しておられ、夫で美術史研究者の佐々木承平氏との共著「円山応挙研究」で日本学士院賞を受賞されている。

現在、京都嵯峨芸術大学教授であり、時にNHK「新日曜美術館」等で、諸作品を解説されている。本講演では、スクリーンに映し出される数々の日本絵画を題材に、その伝統と流れの中に見る美の形について、わかりやすくお話を進められ、私たちも寺社の襖絵や屏風、日本



ある日本画の話

れ、大変熱のこもった講演を終わられた。

ので、お話の進むほどにどんどん引き込まれていき大変好評を得た講演でした。

たとえ概要であつてもお話のすべてを紹介するのはとても無理なので、冒頭の部分の一端を紹介します。

はじめに

現代教育研究協会ということでは初めてのことで楽しみです。

教育を身につけるといふことは非常に総合的なもので、最近「生きる力」を身につけさせるといふ言葉が使われたりしています。人間が人間としてこの世に存在するための力をどのように身につけていくかということであり、教育に課せられた課題が大変大きくなっている時代であると思っています。

芸術の役割

その中で芸術というものが人間形成にどのような役割を果たしているのか問われています。

現在の若者たちは昔に比べ自分の目からみるとエネルギー的には低下しているように思います。

そういう社会の中で、芸術の分野でどういことが出来るのか? 「癒し」という言葉があり、人間の情動的な活動を支えていくということが盛んに言われていますが、自分が担当しているのは音楽ではなく絵画という分野です。

耳は簡単にふさぐことができませんが、眼はふさぐことができません。ということは絵画には能動的な姿勢が要求されており、こういった分野が今の様な社会に生きる若い人たちに何らかの役割を担うことが出来るのではないかと、研究課題でもあります。

美術教育の課題

それと同時に、残念に思っていることですが私は日本美術という日本独自のものを扱っているもので、国際的な場、会合に出ることがあり、その時に思うのは外国の方は自分の国のことをよくご存じで国民としてのアイデンティティが確立されているのに対して、日本の学生は日本のことを知らなさすぎると思うことがかなりあることです。

それは特に芸術の分野における教科書の問題ではないか、教科書

にもっと日本の文化を取り上げる必要があるのではないかと思っています。

現在はグローバルな社会ですから外国の様々な文化というものは同時性を持ってどんどん日本社会に入ってきます。そして日本文化というものもある意味当たり前すぎて、眼を開けて見ようとしなければなかなか自分自身がタツチすることが出来ない時代になってきています。

そういうことから、もう少し教科書の中で基本の日本文化を扱うべきではないかということ、こういった伝統のものを生かした中から革新が生まれてくるにもかかわらず、表現者としての個々の若い人を考えた時、表現のための技術を教えられずにきているということ 생각합니다。

技術がなくては、表現はできません。文章力があって初めて自分の内面を文章で表現でき、楽器を演奏することが出来て初めて感情の起伏などの音楽表現が可能になるように、美術教育というものもある程度の技術指導があって初めて内面を表現できるのです。しかし現在の美術教育においては、音楽のような技術指導がしにくい形になっています。

その理由として考えられるのは、明治の初頭に日本の美術については基本のものがすでにあったので、音楽のように基礎的なものに改めて力をいれなくてもいいのではと思ってしまったところがあるので

はないかと学生を見て思います。

もう少し様々なところで、表現のための技術の問題を身につけることができればもっと表現者としての幅が広がるのではないかと思っています。

本日の講演内容について

今日お話ししようと思うのは、ここには異分野の方々がたくさんおられるので、日本絵画という、美術史、日本文化の中で日本の伝統的な絵画とはどんなものだったのかという、まず基本のところを考えてみようと思います。

それから昔は絵のことを画道と言ったのですが、画道と言う時、技術と思想の「型」を使用した学習法があったが、今、絵画の分野の中では「型」を使用した学習法は全くなされなくなっています。そのことを大変残念に思っています。

自分が今勤務している大学には生け花の授業というのがあります。生け花を週に一回、半年習ったらどんなに出来の悪い学生でも、素晴らしく上手に花を生けることが出来るようになります。言い換えると生け花を一年でも習っている人で、上手に生けられない人を見たことがありません。

ところが、外国人に何も教えずに「花を生けてみなさい」とやってみるとどうなるか。実際にイタリアやアメリカ人の芸術関係の十八人に華道で扱っている生け花の型絵を渡して実際にやってもらうと、最初に言われたのは、花の

数が少ないということでした。

ブーケのように花がたくさんあるものを集めてどんと置いたものがフラワーアレンジメントだと思っているから、日本のように自然に生えている姿をここに移そうというような発想がないので、こんな絵を渡されてどうしようというのと、次に木を添えていたのだからその木をどうするのかも戸惑われます。

だがその人たちの中に、日本にいる人で生け花を見たことがあるという人がいて、その人は完璧ではないものの生けることができた。才能があっても型がなければ表現をしない、ということ、それじゃあ型があったら制約を受けるのか、という両方の問題も考えてみたいと思います。

今日はこういう機会を与えていただいたので、日本の伝統文化の中で絵画にどのような形があるのかということ、現代の教育に伝統が生かせる部分があるのではないかと、そして今の若い人たちにもっと精神的に豊かに強くなってもらうことに芸術が何か役割を持てないのかという三つのことを考えながら話を進めていきたいと思っています。

ここからが本題

……ここからスライド映像を映しながら、講演の本題にはいってゆきます。

大和絵に始まる日本絵画の伝統と流れ、漢画の受容、西洋画との

出会いと大変多くの素晴らしい映像をもとに、体系的に、俯瞰的に、細部の技法に至るまで丁寧に説明され、出席者はいつのまにか先生のお話に引き込まれてゆき多くのことを学び教えられ、また道や型ということについての教育の在り方についても深く考えさせられました……。

出席者に京都市総合教育センターの小学校の図工、中学・高校の美術担当の指導主事も来ておられ、講演後の質疑応答では現在の美術教育の現状についてのお話もあり、時間が許せばもっともっと聞きたいと思いつつ、散会しました。

第三回講演会 平成二十四年八月二十五日(土)

「逆境に立ち向かう」

「震災津波の復興に、自然と歴史と文化を」

岩手県大槌町教育委員会生涯学習課長兼図書館長
生き物文化誌学会会員 佐々木 健氏

平成二十三年三月十一日の東日本大震災は、地震、津波、福島県原発事故と未曾有の被害をもたらした。講師の佐々木氏は岩手県大槌町に生まれ、大槌町の役職員で、震災後の二〇一一年四月から生涯学習課長、図書館長を兼務、最大で四十四か所あった避難所の運営も担当された。また全国各地からの要請に応えシンポジウムや講演活動にも奔走され、被災の現場からの

生の声を発信されている。当日はパワーポイントを用いて、最初に講演の内容として以下の項目を提示された。

- 。岩手県大槌町はどこにある？
- 。大槌町はどんなまち、だったのか
- 。突然の地震と津波
- 。極限状態での対応は
- 。国内外からの支援
- 。避難所統括と移動図書館担当に必ずある「次」に備えて
- 。文化は経済活動
- 。お任せでなく本場の協働を
- 。宮沢賢治の思い
- 。ひよっこりひよつたん島精神と吉里吉里人
- 。耕す行為が未来を引き寄せる
- 。復興には、自然と歴史と文化が不可欠



生場の生の声を発信されている。当日はパワーポイントを用いて、最初に講演の内容として以下の項目を提示された。

はじめに

震災以降、こうして話す機会が増えました。被災地に対していろいろな支援をいただいていることに、改めて御礼申し上げます。

今月の初めに災害対策本部が廃止になり、作業服での勤務を止めて、事務服で仕事をせよということになりましたが、災害対策本部が廃止になっても瓦礫は残り、コンクリートの基礎が残り、仮設住宅にたくさんのお年寄りがまだまだおられます。

京都ということでは、被災地からの距離が遠く、震災への思いが薄らいでいくようにも思いますが、私は大槌町の職員ですが、また生き物文化誌学会の会員でもあり、以下の視点で今日は話したいと思っています。

……という前置きで震災津波被害の写真などもスクリーンに映しながら、大変熱のこもったお話を続けられた。限られた紙数では、とてもすべてをお伝えできないので、講師の用意されたレジメから、レジメの抄録という形で一部をご紹介します……

今日伝えたいこと

三・一一の出来ごとは、これまでの生活様式や政治経済の有様を、そして自然との関わりを、根本から改めなければならぬことを示した、はずであった。

しかし人間は、自分の目の前に「ある」と信じ切っていることのみを、ちっぽけな自分のスケール

に無理矢理合わせることを選択してしまった。

しかし、人間が自然の一部であることを、先人がいたからこそ今であることを忘れてはなるまい。被災者のみならず、日本人にたくさん課題を突き付け、一方で示唆を与えたと信じたい。

自然と歴史と文化を

復興となると、産業がどうなるか、人々がどこに住むかが焦点になるけれど、それだけではないと言いつけてきた。震災からの復興には自然と歴史と文化の視点が必要である。

大槌町とは

自然という面では、大槌町を流れる源水川には淡水型のイトヨが生息していた。

津波は源水川を駆け上がり、すぐそばにある大槌中学校の建物二階部分まで浸水し、イトヨがどうなったか確認できない日々が続いた。イトヨの生育環境として大きなダメージを受けたことは容易に想像されるが、平成二十三年五月に源水川へ行った際、イトヨを見つけることができた。

また、大槌町は岩手県内でも二番目に古い鮭の孵化事業の歴史を持つている。源水という地名が示すように湧水豊かなところでもある。昭和八年に町場にあった孵化場が津波被害を受けて源水に移転した歴史を持つ。大槌中学校は津波で浸水したためにそこの学校

再開は困難である。

例えばそこに孵化場を新設し、イトヨ生息地を孵化場が移転する前の状態に戻すなどの方策が考えられるのではないか。

ひよっこりひよたん島精神で

大槌湾には、「ひよっこりひよたん島」のモデルとなった「蓬萊島」が浮かぶ。その島も今回の津波で水没し、大槌港灯台は折れ、オットセイ供養塔も流された。だが弁財天を祀るお堂は残った。

島の中央にある赤松は、極めて塩に弱く津波直後には葉は茶色に変色した。手入れに入った造園業の人は「松は自ら生きようとして、生きようとするのを手助けするのだ」といわれた。

井上ひさしの描いた「ひよっこりひよたん島」もいろんな人たちが上陸し、様々な問題が巻き起こるが、誰一人として排除するのではなく、皆が一緒になって問題を解決していくのである。

私たちが取り組んでいるのは、震災からの復興であり、国や県に頼ってばかりいるのではなく自分たちの町の復興である。自治体の名前をすげ替えばどこも同じというような計画であってはならない。なぜならそこに住む人たちの暮らしには、そこ固有の文化があるはずである。言葉を変えれば、アイデンティティである。

先人の英知や自然との調和が織りなしてきたものが、今日につな

がっているのである。一見何も関係ないように思えても、なくてはならないもの、それらはたくさんあるはずである。レイチエル・カーソンが「沈黙の春」に書いたように。

おわりに

震災で大変多くの方々の支援を

頂戴することができ、今に続いている。大変有り難く、ご支援のすべてに対する感謝を限られた紙幅に記せないことを、どうかお許しください。蓬萊島の灯台は、海上保安部が再建することになった。この灯台に灯りが灯る時、それは「復興」ではなく「復光」であろう。

第四回講演会

平成二十五年一月十九日(土)

「動物たちが幸せに暮らせる動物園をめざして」

京都市動物園副園長・獣医師 秋久成人氏

開園して百年以上経過した京都市動物園は、今動物園大好き市民会議の議論を基に新しい「京都市動物園構想」を策定し、現在改革、整備の真っ只中にある。年明けの講演会は、動物園副園長としてのその改革を推進されている秋久成人氏を講師としてお招きし表記の演題でお話を伺った。

当日は、カラー印刷の資料も準備され、スクリーンに映る画像や動画を含め、大変中身の濃いお話の連続であり、限られた紙面ではとてもすべてをお伝えできない。冒頭の部分のご紹介をすることで報告にかえさせていただきたい。

はじめに

氏は京都市中京区に生まれ朱三小、松原中、堀川高校、日本獣医畜産大学を卒業後京都市職員に採用され、主として動物園勤務を中心

京都市の動物園は、今改修の真っ只中です。すべてのテリトリが工事だからで叱りを受けている状態ですが、今年の夏を過ぎれば一段落というかい感じになると思います。



しかし私の心の中では子どものころからよく知っている動物園が、これだけの大きな全面改修で変わっていくことに対して、正直なところ心苦しい思いもあります。

ただ、これからの動物園の在り方を考えた時、教育の場としての在り方を考えても、作り変えるべき時には作り変えていくことが大切という思いで改革を進めています。

京都市動物園の成り立ち

明治三十六年四月にオープンして今年の三月で百十年になります。東京都恩賜上野動物園に続いて日本で二番目にできた動物園です。

きっかけは明治二十年代後半に内国博覧会が岡崎の地で開かれ、古書によると今の動物園の場所で開催の珍獣奇獣展が開催された。博覧会が終わっても動物たちは行きどろがなくその場で飼われていました。

そこで市民は動物たちを近くでみれるような環境をつくろうと募金活動による寄付を募り、市民との共同作業で自治体がつくった初めての動物園です。

その後、大正に入ると大阪市の天王寺動物園、昭和にはいつかは電鉄会社のアミューズメント施設としての動物園ができていくということになりました。動物園の設立当時は入り口があるだけでしたが、多くの方で賑わっている写真が残っています。

ここに大正二年の俯瞰図が残っていますが、疏水や道路にはさまれた全体的な配置は現在と何も大きく変わってはいません。

これは大正十二年に作られたゾウ舎の写真ですが、この柵が今もそのままの位置にあります。百十

周年を迎えてイベントを準備していますが、昔の写真の入ったフォトブックの販売も考えています。

動物園のたどってきた歴史

動物園の出来ごと、歴史の中には悲しいものがあり、一番は戦争です。

空襲で動物が逃げ出したら大変ということ、昭和十九年に軍から殺処分命令がでました。ここにあげたクマやトラ、ライオンなど九種十四頭が処分されました。他にも逃げ出したら大変な大型の動物がいますが、その動物たちはたくさんエサを必要としエサが十分に与えられなかったため、どんどん餓死したという記録があります。

戦争が終わった後、動物園の南半分が進駐軍に接収され、軍の駐車場になりました。

もともとこの岡崎一帯は白河天皇にゆかりの六勝寺という寺域で、応仁の乱で焼け野原になる前は動物園のあったこの場所は法勝寺とい、その跡地です。

法勝寺は真中に八角九重の塔が建てられていたという記録があります。ちなみに東寺の五重の塔が三十六メートルですから、八角九重の塔は五十メートル以上の建物

が立っていたと思われる。そのころの構造物で五十メートル以上の建物を支える基壇はどうなっているのか、基壇がでくれば史跡公園になるのではという思いのある場所でもあります。当時、

東から入浴してくる人にとつては、初めて都で目に入るものとして白河天皇の威光を目のあたりにする目的もあつたとされています。整備計画を進めるにあたって、

進駐軍の接収があつたので当然基壇などは破壊されていると思つていたので、実は基壇がしつかり残っていました。

一瞬、整備計画は全部だめかとあわてましたが全体計画を見直し、盛り土を置いて固め、その上に基礎を置いてという工法に切り替えてやっていくことになりました。この動物園の土地は雨で砂が流れたということがありますが、十センチ掘れば平安時代の地層がでます。文化財保護の仕事をしている人たちは工事が進むにつれいきいきとされてきます。工事が終われば、法勝寺の記録としてはかなりはつきりした物がでくるのではと思われま

す。接収後、昭和二十年代の半ばを迎えますが、動物演芸、ショー的要素を持ったアミューズメント一色の時代を迎え、昭和三十年代になって動物とのふれあいの大事さが求められるようになり、「おとぎの国」というふれあいコーナーが設けられたりもしました。(子どもたちと動物とふれあう写真の数々が映される)

動物園の四つの役割

さて、現代の動物園にはどんなことが求められているか？(……)こうしてお話は佳境には

いつてゆき、以下の四つの項目の一つ一つについて、画像や動画を交えたお話が続きます……)

①命に触れる憩いの場・レクリエーション

②楽しく学ぶ・教育・環境教育

③動物のことを調べる・調査・研究

④動物を絶滅させない・種の保存

(……)そうして、次にあげるようなポイントについて詳しい説明が続く)

。ふれあい、いやしを目的とした取り組み

。実際のものをさわるイベントの取り組み

。京都大学との連携

。白テナガザルの人工繁殖の取り組み

。動物園に隣接した野生鳥獣保護センターを京都府から委託され、年間五百〜六百の動物たちが届けられ、四割が自然復帰している。

。ゴリラの繁殖は日本では十二例しかないが、京都市では四世代にわたって繁殖が成功、しかし悲しい事故もあった。繁殖を支える類人猿舎のグラウンド緑化の取り組み

……そして、いよいよ新京都市動物園構想の七つのコンセプトに基づく改革についての話に続きます。紙面の都合でご紹介出来ませんが、具体的に丁寧なお話に、またたく間に時が経ってゆき、大きな拍手のうちに講演が終了しました。……

春の研修旅行

平成二十四年三月二十五日(日)〜二十六日(月)

春の瀬戸内紀行―備前・閑谷学校、尾道・千光寺、宮島・厳島神社、瀬戸田・耕三寺を訪ねて―

京都の桜の開花宣言が、例年に比べ六日ほど遅く四月三日だった平成二十四年の春の宿泊研修は、穏やかな瀬戸内をめぐる旅を企画しました。

午前八時半に京都駅八条口を出発したバスは渋滞もなく順調に進み名神から中国道、山陽道を経由

し午前十一時に備前市・閑谷学校に到着しました。

閑谷学校とは寛文十年(一六七〇)に備前藩主池田光政が創設した庶民のためにつくられた日本最初の学校です。国宝の講堂をはじめとする堅固で壮麗な建築物が完成したのは元禄十四年(一七〇一)で

現代教育研究協会の歩みをふりかえる (その三)

昭和四十四年に、京都市立塔南高等学校初代校長、洛陽工業高等学校校長を歴任された森藤吉氏の呼びかけで、当時の京都の教育の現状を何とかしていきたいと考える幼・小・中・高の教員を中心に四十余名が集まって、営利を目的としない民間の教育研究団体「京都教育研究所」を立ち上げ、その後昭和四十八年には文部省の認可を得て、「社団法人 現代教育研究協会」として発足し、教育調査研究の実施や教育講演会の活動をつづけてきた。平成二年には「生涯学習フェスティバル」にも参加、シンポジウムを開催しと活発に活動をつづけてきたと前号にふれたが、平成七年十一月、森藤吉会長が志し半ばに他界された。その後、協会の事業の継承発展を切望する多数の方々の支援を得て、ご子息森清史氏が会長代行に就任され協会事業の継続維持に努められた。その当時の活動の中心は生涯学習事業部門

としての「熟年ロータリー」で成人対象の相互啓発学習の場を設定、時宜にふさわしい活動テーマを設定し、講演会を月一回実施していたことが記録として残っている。

周年記念事業

前号では、創立二十周年記念事業としての「紫式部 乾漆坐像」の京都府への寄贈現在文化博物館二階に安置されている）にふれたが、創立十周年記念事業では林田悠紀夫京都府知事、舟橋求己京都市長の祝辞をいただき、記念講演として当時の砂田重民文部大臣より「最近の教育問題——我が国の青少年育成について——」という演題で一時間余にわたって、熱意あるご講演をさせていただいたことが記録に残っている。また、十五周年記念事業では当時の瀬戸山文部大臣、林田京都府知事、今川京都市長の祝辞のあと記念講演としてソニー株式会社の井深大名誉会長より「日本の

ノーベル賞受賞者も

研究活動としての講演会の講師として各界の第一人者とされる多くの方々が協会の講演会でお話しただいて、その当時の記録をひもとくと、ノーベル賞を受賞された以下の方々にもご講演いただいている。

昭和四十五年

湯川秀樹先生

「創造性の教育」

昭和五十七年

福井謙一先生

「化学と私の人生」

昭和五十八年

広中平祐先生

「日本の教育を考える」などが協会の記録に残っている。

①現存する②庶民を対象とした③学校建築物、としては世界最古のものといわれています。

施設管理の職員の方から、学校としての歴史やその当時の歴史的背景、国宝や特別史跡、重要文化財に指定されている建造物などの見所についての丁寧なお話を聞いた後構内を散策、講堂では高校生の団体が床に正座し、論語の講釈を受けていました。

一時間たっぷり見学のあと、時にみぞれが舞う山あいの道を抜けて高速道へ、そして吉備SAで思い思いの昼食をとり、天候も青空が広がるなか尾道の千光寺公園に到着しました。

新尾道大橋に尾道水道という素晴らしい景観のなかソメイヨシノはまだまだですが、道沿いの八重桜がすでに開花している文学のこみちを散策し、千光寺の参詣をしました。

そしてバスにもどり、宿泊場所でも明日の見学場所でもある安芸の宮島に向かいます。午後五時過ぎに宮島口からフェリーに乗船し宮島の宿に着き、湯に入り、美味しい食事をいただきました。

翌朝は朝八時半に宿を徒歩で出発、さわやかな晴天の下、地元の方のガイドに引率されすぐ横にある厳島神社の見学、参拝に向かいます。

ちょうどNHKの大河ドラマで放映中の平清盛が仁安三年（一一六八）に現在の壮大な規模に造営し、平成八年に世界文化遺産に登録されているという御社殿について、ガイドの説明を聞きながら見学や写真撮影をし、周辺の土産物店での買物を楽しみました。

その後、フェリーで宮島口へそしてバスに乗りしなみ海道の生口島へ向かいます。生口島で昼食





のあと、西の日光とも呼ばれる耕三寺を訪ねます。

耕三寺は昭和十一年（一九三六）から伽藍の建立が始められた浄土真宗本願寺派の新しい寺院ですが、日本各地の著名な歴史的建造物を模した堂塔が立ち並び山門・本堂をはじめ十五の建造物が国の登録有形文化財として登録されています。境内には早咲きのピンクの河津桜が咲いていて、花を見、また多くの建造物をじっくり見ているとすぐに時間が経ってしまうということ、もつといういろいろ見なかったという思いを残したまま、午後二時半には帰途につきました。

途中、宝塚トンネル付近では渋滞に会いましたが参加者全員が、事故もなく元気に京都駅八条口に帰ってきました。

秋の日帰り一日研修

平成二十四年十一月二十日（火）

彦根城・博物館と玄宮園、湖東三山・百済寺を訪ねて

平成二十四年秋の一日研修は、滋賀県の彦根城を訪ね天守閣や博物館の見学、研修と玄宮園の散策、そして湖東三山の一つ、百済寺の拝観をし、紅葉を愛でるという研修を企画しました。

日程に余裕を持たせるため八時十分に京都駅八条口に集合し、八時三十分に出発しました。

東インターから名神高速に入ると、出発時の秋晴れがだんだんと曇り空に変わっていき、彦根城に着いた時には本格的な雨模様となりました。京都に戻るまで車外の移動には傘が必要という状態が続

きましたが、雨にぬれた紅葉も一段と風情があり、秋の一日を楽しみました。

井伊家の大名庭園である池泉回遊式の玄宮園での茶席が全員同時は無理で、グループに分かれ時間差をつけるということで、彦根城天守閣見学グループと博物館見学グループに希望で分かれ、彦根城に到着するとベテランのボランティアガイドに引率され見学に向かいます。天守が国宝に指定された四城の一つの彦根城の由来や城郭、櫓の敵の攻撃に備える防御の工夫などの説明を、遠くに佐和山城跡を眺めながら丁寧な説明をしていただきます。

また博物館は、明治時代に取り壊された表御殿を復元し開館したもので、井伊家に伝来する美術品や古文書、茶道具、楽器関係などの展示物について説明を聞きながら鑑賞しました。

相前後して、唐の玄宗皇帝の離宮にない名付けられたという玄宮園では、池越しに紅葉の向こうに浮かぶ天守を見ながら美味しい抹茶とお菓



子をいただき、その後、三々五々夢京橋キャッスルロード近辺でお土産を買い、長浜の太閤温泉、浜湖月での昼食に向かいます。

浜湖月では、昼食の名物会席を美味しくいただきましたながら、皆で楽しく歓談のひとときをもちました。

バスはその後、近江最古級の古刹で千四百年の法灯を伝える百済寺に向かいます。寺伝によると、推古天皇の十四年（六〇六年）聖徳太子と当時来朝していた高麗の僧、恵慈が開基したとされ、金剛輪寺、西明寺とともに湖東三山のひとつとして知られている。二度の火災や織田信長の焼き討ちを経て、慶安三年（一六五〇年）に將軍「家光」による百済寺再建許可が出て、本堂、山門、仁王門などが復興されたとされる。

雨にぬれてなお鮮やかな紅葉の中、石段を上がるもの、なだらかとよばれる坂をゆくものと二手に分かれ本堂に向かい、特別公開されている寺宝で美の極致とされる「如意輪観音半跏思惟像」と百済寺再建時の寄進者、春日局の遺品「聖徳太子孝養像」を備え付けの小さな双眼鏡で鑑賞した。

境内で記念写真を撮ったが、当日は雨模様で三々五々の行動となり、全員が揃うには至らなかった。



ことが惜しまれる。その後、あいう道の駅に立ち寄り、地元の名産品の買い物を楽しんだ後、帰路に就きました。

編集後記

この冬もまた、例年になく寒かったという表現をする時期になりました。一般社団法人への移行認可も会報の発行時には目途の立っていることと思います。昨今に限りませんが、教育に関わる課題や問題も社会には多く、協会としても一層、実りある研修や講演会などの活動を進めていけたらと願っております。